（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぴーすの児童デイぱんだ			
○保護者評価実施期間	年　月　日		～	年　月　日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	0	（回答者数）	0
○従業者評価実施期間	令和6年3月1日		～	令和6年3月31日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年9月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援の提供すべき支援として、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携については、同一事業所内の各スタッフと相談・連絡・協働を意識した支援の拡大を期待することができる。	・ケース共有会議における事例の検討。また相談・連携においてはすぐに対応することができている（例）相談支援：デイサービス利用日の調整、施設支援：学校との連携。	・相談支援：他事業所の見学、様子見の提案。施設支援：学校の見学、様子見の提案。自所のデイサービス以外での様子を観察することにより、新たな視点や支援の連携が期待できる。
2	・支援学校・地域学校双方に通う多様な特性を持った異年齢の児童同士が成す集団的活動を経験することにより、様々な気づきと『社会生活スキル』の獲得を期待できる。また地域（地域資源）へ出かける体験をとおして、学びと成長を得ることができる。	・客観的な自分や他者の得意・不得意の気づきを促進することができる。自分にできることで社会の一員としての役割を果たそうとし、他方で不得意なことは助けてもらい感謝するといった『社会で生きて行くための力』の醸成を図ることに期待ができる（インクルージョンの実践）。	・児童同士で自ら気づきや生きる力を醸成する『ピア効果』を高められる機会と場所とプログラムの設定を準備する。必要な失敗（＝主体性を育む気づき、成長のための失敗）と不要な失敗（＝できなくなる失敗、成長しない失敗）を支援者が見極め、自己肯定感の向上を目指していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者や家族に対しての『家族支援プログラム』が不十分であること。	・支援する児童へ意識が偏り、保護者や学校への働きかけや意識が希薄化していたこと。	・今年度中に『保護者同士の意見交流の場』を設定し、試行してみる。 ・同一事業所『ぱれっと』で実施している会合の案内をしながら、企画・運営に関して相談する。
2			
3			